

1 学年前半

学期	月	主な行事	進路	G a y a	ポイント	到達目標	
1 学期	<p>< 1 学期の目標 > 高校生活の新しい環境に適応して、中学校から高校へ学習スタイルを転換する。家庭学習時間(自律的な学習)を予習中心に平日 3 時間、休日 5 時間行う。 総合的な学習の時間 (G a y a) を通して、大学を身近に体験したり、現代社会の諸問題に目をむけたりしながら、自分の興味・関心・適性を分析し、「なりたい自己」(進路目標)を見出す努力をする。</p>						<p>高校生活のリズムに慣れる。予習中心の学習方法を身につける。</p>
	4 月	課題テスト オリエンテーション 合宿 身体・スポーツテスト	進路志望調査 生活記録調査	進路目標設定のための技法を知る。シラバスにもとづき、G a y a のイメージを確認する。	新しい環境(友人・先生・通学時間・生活環境)の変化にあせらず、気持ちに余裕をもつ。担任の先生に生活状況や家庭学習・部活との両立、通学等の悩みや不安を相談する。高校の教科書の量は中学と比較してはるかに多いので、必ず予習中心の学習を行う(教科書だけでなく、参考書や問題集を解く)。塾に頼った学習ではなく、自律的に予習・授業・復習のサイクルを確立するよう努め、家庭学習時間 3 時間を維持しながら、生活のリズム作りを工夫する。出だして調子を崩した人は月末からの連休で体調を整え、学習習慣・生活リズムの調整をする。		
	5 月	開校記念遠足 中間考査	スタディーサポート 進路 L H R 全統高 1 模試(全員)	新聞記事のスクラップを通じて、現代社会における自分の興味の所在を知る。一つのテーマで切り抜き新聞を作成する。	中間考査の結果と各教科の学習範囲のシラバスを見て自己評価を行う。また学習方法や学習状況の点検をスタディーサポート、中間考査の結果から行い、高校生活に適応できるように生活全般をチェックする。試験結果(順位)で人と比較するのではなく、自分の弱点を知り、自らを高めることを考える。目標を明確にして計画的な努力を継続した人は、必ず希望の進路を実現することができる。毎日努力を怠らなければ、成果はすぐに表れなくても何らかの進歩があるものである。結果が表れるまで辛抱するつもりで、謙虚な態度で努力を続ける。P T A 総会資料をもちいた進路 L H R では先輩の進路先を知り、学部学科と職業の資料を通して自分の将来設計をし、あるべき高校生活を描く。		
	6 月	運動会	生活記録調査	作成の動機、本論、問題解決へと新聞の型を意識することで、表現の基本的な技法を学ぶ。	運動会等の行事は、自ら集団の中で果たすべき役割を見出し、積極的な態度で参加する。生活記録用紙の記入を行い、自分の生活スタイルの課題を見つける。(平日はクラブから帰ってすぐの時間を学習の時間として大切に使用しているか、休日の学習を 5 時間以上とって、1 週間の復習・予習・弱点補強に使っているか等を確認する。)塾や通信教育の学習をしている人は、その学習内容が学校の学習と異なるためどっちつかずになっていないか点検し、まず学校の予習・復習(宿題や課題は当然)を完璧にすることを優先し、学校の勉強中心の家庭学習に切り替える。担任の先生や教科担当の先生と積極的に面談し、自分の思いを話し、それについて助言を求めることは、今後の高校生活に大きなプラスとなる。	<p>職業と学部学科について学び、自らの興味・関心・適性を分析する。自律的学習時間 3 時間。</p>	
	7 月	期末考査 クラスマッチ	ベネッセ模試(国 数英)記述 文理サポート進路 アドバイス	大学の内容やその後の職業観を学ぶ。	中間考査に比べて、期末考査は高校に入ってから学習方法で大きく差がでる。1 学期を振り返り、シラバスの自己評価を行い、自らの課題を見出す。文理サポート進路アドバイスを受けて自分の進路について将来を展望し、普通コースの人は文型・理型選択について考える。夏休み中の宿題や課題を軸に学習計画を立て、自律的に学習する。難関大学に合格する生徒は夏休みに長時間の学習に耐えうる学習習慣を身につけ、2 学期の学習時間を増やすことに結びつけている。		
	8 月	夏季休業 三者懇談会 復習考査	夏季補習 代ゼミトップ模試 (希望者) 全統高 1 模試(全員)	広島大オープンキャンパス	夏季休業中に、クラブ活動のほか、校外のボランティア活動、社会体験、短期留学、大学見学などに取り組む。学習面では課題・宿題を中心に据え、1 日 4 時間の学習をめざす。生活リズムを維持するためにも、登校して補習を受講したり、教室や図書室での自主学習を行い、基礎学力を充実させる。苦手科目や苦手分野の克服に努める一方で、得意科目は数ヶ月先まで予習する。G a y a の授業の一環として、広島大オープンキャンパスに参加し、将来の進路について具体化を図る。トップレベル模試に挑戦し、高い目標へむけて努力する姿勢を育む。全統模試では志望学部、大学名を記入するので、進路希望分野と大学をインターネットなどで夏休み中に調べておく。		
<p>< 2 学期の目標 > 高校生活に慣れ、各自が高いレベルの目標を設定する。自律的な学習を行い、確かな学習習慣を身につけ、基礎学力の充実を図る。 さまざまな学問の分野を調べ、就きたい職業を考える。自己の適性を客観的に分析し、目標を達成するためにどのような勉強が必要かを考え、学部学科研究を行う。大学で学びたい学問分野や就きたい職業から文理選択を考える。さらに受験科目調べをして選択科目を確認する。自分の興味にもとづくテーマを探究するための読書・ディベートに取り組む(教科学習が生きて働く場の設定)。</p>							
9 月	三津田祭 校内実力テスト	スタディーサポート 三津田学問探訪	広島大オープンキャンパス、三津田学問探訪などの取り組みの成果として、学部学科研究の冊子をクラスごとに作成する。	3 年間の高校生活を決めるのが 1 年 2 学期である。1 年生 2 学期の過ごし方が、以後の高校生活に最も大きな影響を与える。家庭学習の習慣づけ(予習・授業・復習のサイクル)を確実にする。三津田祭などの行事を通して、集団づくりを行い、行事は進んで盛り上げ、気持ちの切り替えを行う。三津田学問探訪では幅広く社会や大学や学問の世界などへの興味を広げる。			